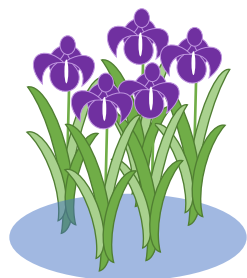


令和7年度良好な水環境保全・活用モデル事業

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト
報告書



2026年2月
館林市教育委員会
(文化振興課文化財係)



- I. 地域の概要～地域の特徴と活動の背景～ P2
- II. モデル事業の実施内容 P6
- III. 成果と今後の課題・展望 P26



I. 地域の概要

～地域の特徴と活動の背景～

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト
—人と湿原の関わりを結び直す(里沼の再生)—

■ 群馬県館林市

①位置： 群馬県東南部のまち

- ・ 昭和29(1954)年に1町と7村が合併
- ・ 北に渡良瀬川、南に利根川(支流の谷田川)に囲まれた低湿地台地 [海拔約15~20m]
- ・ 市内に5つの沼(茂林寺沼・多々良沼・城沼・蛇沼・近藤沼)があり、地域のストーリー「里沼」が令和元年度に文化庁「日本遺産」に認定されている

②面積： 60.97km²

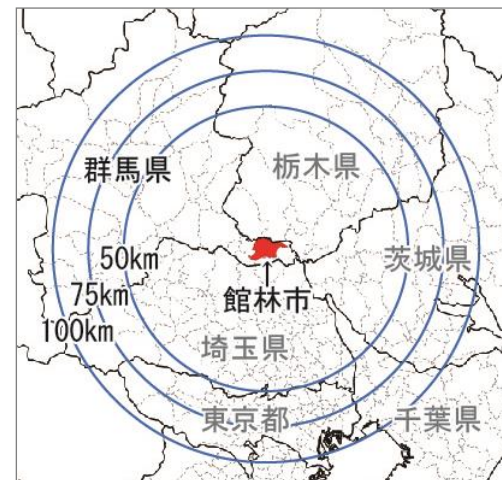
③人口： 約74,000人

④交通： 北関東の要衝

- ・ 江戸期 日光脇往還が整備される
- ・ 明治期 東武鉄道延伸→館林駅開業
- ・ 昭和期 東北自動車道開通→館林IC

⑤歴史： [近世]城下町 → [近代]産業と観光のまちへ

- ・ 江戸期 館林城(榊原康政・徳川綱吉)
- ・ 明治期 館林製粉→日清製粉
- ・ 昭和期 つつじが岡公園、茂林寺(昔話「ぶんぶくちやがま」)



■ 茂林寺沼及び低地湿原(茂林寺沼湿原)

① 群馬県指定天然記念物

- ・ 指定：昭和35(1960)年3月23日
- ・ 所在：群馬県館林市堀工町1169番地 他
- ・ 面積：55,972m²
(沼13,728m² + 湿原・草原42,244m²)
- ・ 植生：水生植物(コウホネなど)
湿原植物(ノウルシ・カキツバタなど)
草原植物 他

② 課題

- ・ 館林市南部にあり日本有数の低層湿原のひとつとして貴重動植物の生息地になっている。
- ・ 平成3(1991)年の茂林寺川流路付替え・護岸工事で湿原内への流水が断絶され、**水量不足による乾燥化・草原化が発生し湿原消滅の危機に瀕している。**(現在は井戸が唯一の水源。)
- ・ 住宅地が近いためヨシ焼きができず、ヨシ刈によって年間で約15万トンのヨシを廃棄している。また除草や木道管理などで**膨大なコストがかかり、湿原維持管理の将来的な持続可能性が喪失するリスクが高い。**



これまでの活動の内容・取組

■ 行政の取組

- ・ 木道整備、ヨシ刈・除草、井戸・水量管理 等
- ・ 自然学習会開催や普及パンフレット作成 等



■ 民間の取組

- ・ 平成 17 (2005)年～ 「茂林寺沼の自然を守る会」が年 2 回に清掃活動実施
→ 湿原健全化と貴重動植物の保護に貢献

別個で動いていた行政と民間の動きが 令和元(2019)年の日本遺産「里沼」認定により変化

■ 【館林市】

- ・ 関連計画の策定
令和 5 年(2023)「茂林寺沼湿原保護保全のための計画(第 II 期)」
令和 6 年(2024)「館林市文化財保存活用地域計画」文化庁認定
- ・ 新規井戸の掘削

■ 【館林市「日本遺産」推進協議会】

- ・ 散策マップ作成
- ・ 説明板・掲示板設置
- ・ ワークショップ(カヌー・着物体験)等を実施

■ 【茂林寺沼の自然を守る会】

- ・ 参加者拡大(民間企業や高校・大学生、福祉作業所等)

■ 【高校生・大学生】 令和 3 (2021)年～

- ・ ヨシストロー&キクラゲ、カキツバタソーダ開発

■ 【地域活動者】 令和 4 (2022)年～

- ・ ヨシを材料とするワークショップを展開



Ⅱ. モデル事業の実施内容

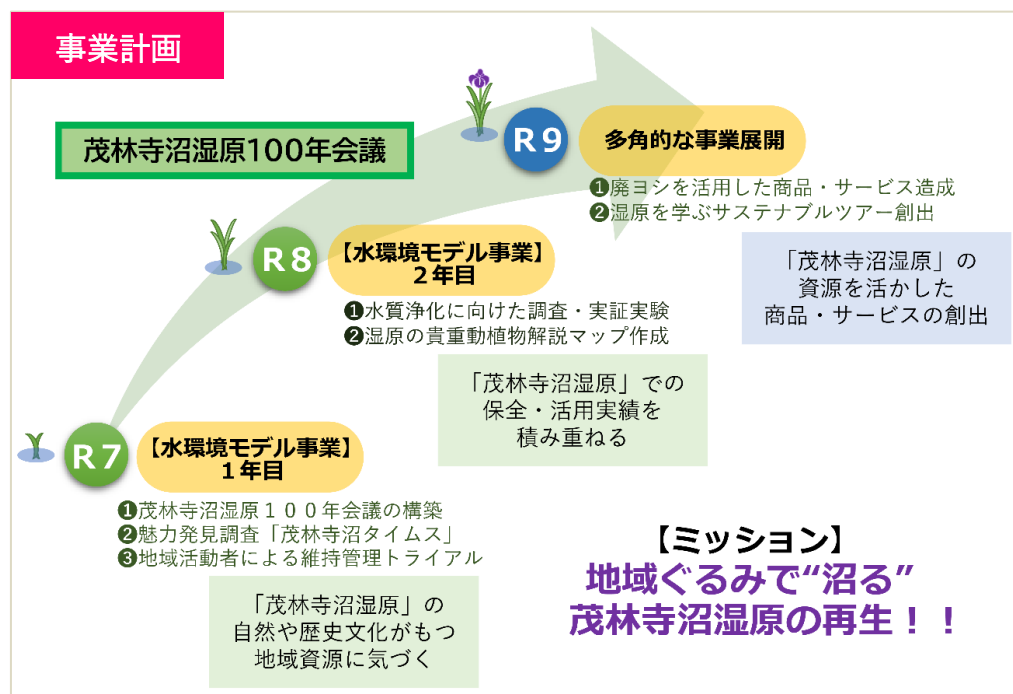
「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト
—人と湿原の関わりを結び直す(里沼の再生)—

■ 目標：地域ぐるみで“沼(ぬま)る” 茂林寺沼湿原の再生！！

・日本有数の低層湿原「茂林寺沼湿原」の健全化を図るため多様主体との連携体制構築や、魅力発見調査や維持管理トライアルに取り組む。

・また廃ヨシ活用商品やエコツアーリズム創出を図り、100年後の茂林寺沼湿原継承に向けて、地域ぐるみでの「里沼」(人が適度に関わることによって良好な環境が維持される沼)の再生事業の展開や自走サイクル確立を目指す。

・地域ぐるみで茂林寺沼の100年後を構想しながら、再生するための各種事業に多様な主体が参画し、“沼る”(=沼にハマるように夢中になる)将来を目指す。



■ 事業概要：《令和7年度テーマ》 茂林寺沼湿原の自然や歴史文化がもつ地域資源に気づく

取組(1)

茂林寺沼湿原100年会議の構築

《「場」と「人」と「方向性」をつくる》

- ・地域の多様主体が参画する「100年会議」を構築し、保全・活用に向けた情報交換やアクション策定を行う。

取組(2)

魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

《小学生視点で魅力・課題・活動を可視化》

- ・地元小学校児童がフィールドワークや取材を通して湿原の魅力を発見し「茂林寺沼タイムス」として情報発信する。

取組(3)

地域活動者による維持管理トライアル

《実践・体験・見試しの場》

- ・ヨシ刈や外来種駆除など維持管理活動の体験会を実施し、将来的に保全・活用を担う人材を育成する。

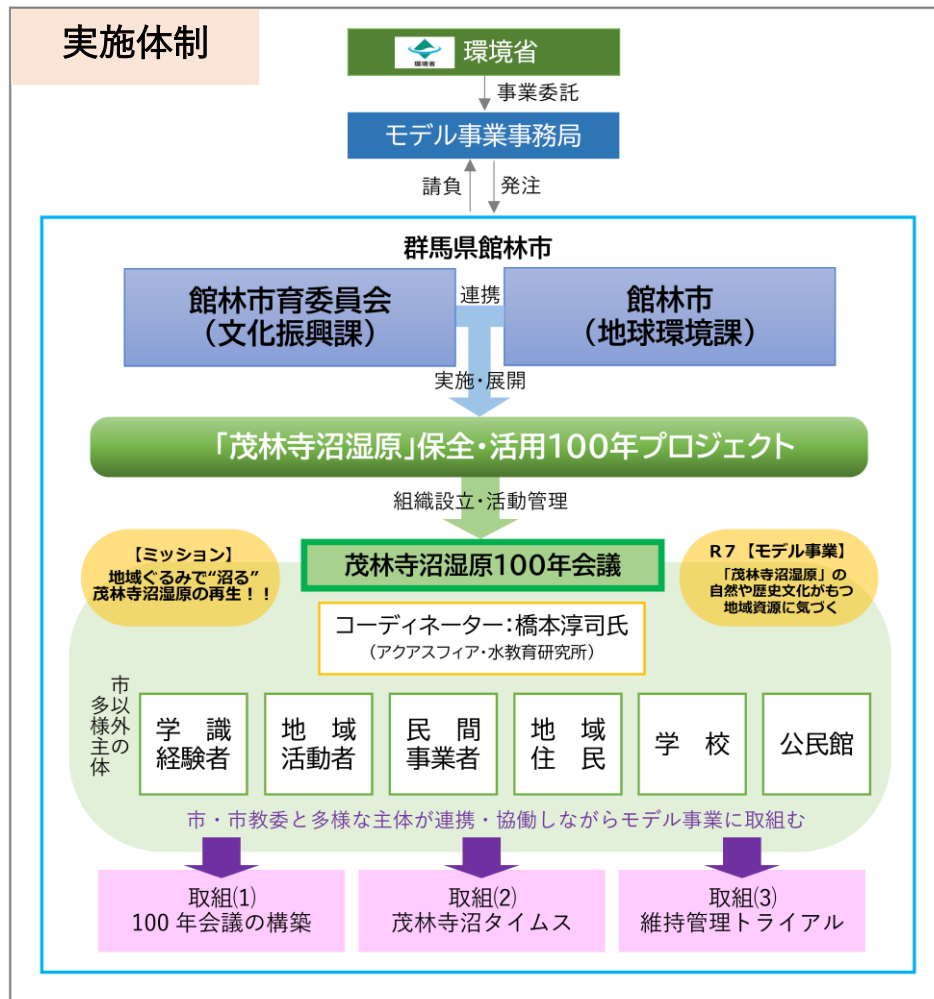


■ 実施体制

- ・水ジャーナリストであり、日本遺産「里沼」地域プロデューサーである橋本淳司氏[アクアスフィア・水教育研究所(以下、アクアスフィア)]を全体コーディネーターとして、事務局である館林市教育委員会(文化振興課)と館林市(地球環境課)が連携しながら、事業実施に取り組んだ。
- ・館林市教育委員会・館林市は、環境省やモデル事業事務局と調整を行ったほか、学識経験者や地域活動者、民間事業者、地域住民や学校などと連携を図った。

■ 定期ミーティングによる情報共有

- ・毎週水曜に館林市教育委員会とアクアスフィア間で「定期ミーティング」を行った。また、アクアスフィアは茂林寺沼湿原維持管理活動や市立美園小学校との調整にも積極的に足を運び、取組の円滑化を図った。
- ・毎月第3水曜の10:00~11:00で環境省・モデル事業事務局間で「月例ミーティング」(オンライン)を実施し、事業進捗状況を随時共有し、アドバイス等を受けた。



令和7年度事業スケジュール

取組内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 100年会議	R7 開催準備		100年会議① 8/30(土) 14:00-16:00 ・事業キックオフ ・参画者顔合わせ ・方向性共有			100年会議② 11/9(日) 14:00-16:00 ・トライal結果の共有 ・中間ふりかえり ・ヨシ刈準備		100年会議③ 1/31(土) 14:00-16:00 ・アクション策定 ・全体ふりかえり ・来年度へつなぐ対話	R8 活動準備	R8 活動準備
② 茂林寺沼 タイムス	学校と 詳細協議	レクチャー 7/17(木) 11:30-12:15 ・茂林寺沼湿原と 「里沼」を学ぶ ・タイムス説明	【学校夏休み】	フィールドワーク 9/19(金) 8:30-11:20 ・フィールドビンゴ ・フィールドワーク ・グラレコ紹介	興味関心ごとに グループ分け	タイムス①作成 11~12月 ・児童各自で「タイムス作成」 ・橋本さんから添削指導		出前授業①「調べ学習」 1/15(木) 14:25~15:10 ・調べ学習のポイント ・情報発信の方法 出前授業②「ゲストティーチャー」 1/21(水) 14:50~15:35 ・専門家へのインタビュー ・グループ取材	里沼オンラインサミット報告 2/10(火) 14:00~15:00 ・タイムス発表 タイムス②完成 2月中旬	
③ 維持管理 トライアル	方向性 メニュー検討		毎週(木)・(金)午前に活動を行い ①保全・活用の課題の洗出し ②維持管理トライアルのアイデア整理 を行った (橋本淳司氏・アクアスフィア・NPOあいず)			トライアル① 10/4(土) 8:30-12:00 キシウバスターズ (清掃活動&外来種駆除) ・除草 ・木道管理作業 ・ミニ対話	トライアル② 11/23(日) 9:00~12:00 ヌマヨシカッターズ (ヨシ刈) ・ヨシ刈 ・ワークショップ ・ミニ対話	トライアル③ 1/11(日) 9:00-11:30 ドンドファイヤーズ シソゲンドクターズ ・どんど焼き手伝い (ヨシ搬出)	トライアル④ 2/14(土) 9:00~12:00 バンブーカッターズ (竹伐採) ・竹伐採 ・ワークショップ ・ミニ対話	100年プロジェクト 活動履歴サイト
関連活動	環境省フォーラム 6/9(月)13:30-17:00 現地視察①(山崎先生) 6/24(火)11:00-17:00	(月例ミーティング) 7/16(水)10:00-11:00 オンライン	(月例ミーティング) 8/20(水)10:00-11:30 オンライン	(月例ミーティング) 9/17(水)10:00-11:20 オンライン	(月例ミーティング) 10/15(水)10:00-11:00 オンライン	現地視察②(三橋先生) 11/28(金)13:00~17:00 11/29(土)9:00~17:00	環境省シンポジウム 12/22(月) 13:00~18:30	(月例ミーティング) 1/21(水)10:00-11:00 オンライン	環境省成果発表会 2/20(月) 13:30~16:30	



■実施内容：取組(1)茂林寺沼湿原100年会議の構築

《「場」と「人」と「方向性」をつくる》

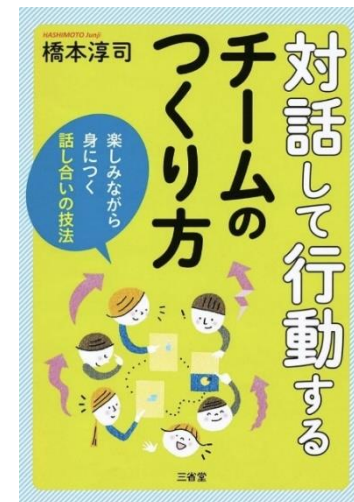
- ・地域の多様主体が参画する「100年会議」を構築し、
保全・活用に向けた情報交換や将来像とアクション設定を行った。
 - ❖8/30(土)「第1回会議」24人
 - ❖11/9(日)「第2回会議」15人
 - ❖1/31(土)「第3回会議」25人
- ・参加者…茂林寺住職、地元区長、専門家(植物・昆虫)、高校(教諭・生徒)、
清掃活動参加団体、どんど焼き保存会、NPO法人、地域活動団体、
社会福祉法人、民間事業者、青年会議所、一般社団法人 等



グラフィックレコーディング
アラワス 関美穂子さんサイト

■実施成果：

- ・これまで個々で活動していた団体同士の情報交換や対話を通じて、20年後(2045年)の茂林寺沼湿原のあるべき姿を描き、その実現に向けて能動的なアクションを設定することができた。
- ・試みとして「グラフィックレコーディング」(以下、グラレコ)を導入した。
グラフィックレコーディングは、結論や合意を整理するだけでなく、話し合いの流れや残された問いを可視化するために用いられていた。未完の思考プロセスを共有する記録として扱われていたことで、次回以降の議論や関係者間の理解につながる役割を果たした。
- ・第3回会議で出た「①保全活動」「②続くしくみ」「③関わるきっかけ」「④場を整備」「⑤資源循環」の5つの方針に基づく各アクションは、次年度での展開を図る。



会議のノウハウはこちらの書籍参照

【取組1】 茂林寺沼湿原100年会議の構築

《第1回会議》

- 日 時：8/30(土) 14:00～16:00
- 場 所：館林市文化会館 3号室
- 参 加：24人
- テーマ：Why



「20年後の茂林寺沼湿原、どうなっていてほしい？そのためには？」



《第2回会議》

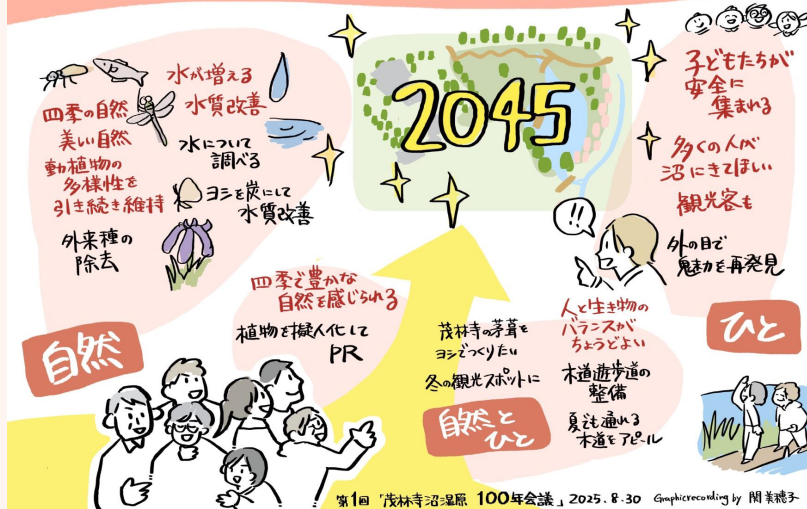
- 日 時：11/9(日) 14:00～16:00
- 場 所：館林市文化会館 3号室
- 参 加：15人
- テーマ：How



「20年後の茂林寺沼湿原の姿を実現するため私たちはどのような活動ができるか？それはどのエリアか？」



20年後の茂林寺沼湿原、どうなっていてほしい？そのためには？



第1回グラレコ

20年後(2045年)の茂林寺沼湿原の姿を実現するために



第2回グラレコ

第1回会議グラフィックレコーディング(その1)

茂林寺沼湿原の好きなのところは？

街の近くに
豊かな自然

絶滅危惧種の
植物がたくさん
多様な動植物

季節ごとに
変わる景色

東日本唯一の低層湿原



分福茶釜
昔は遊べた
(今はない)

これから
知ってみたい

春の
芽生え

桜ジシの
茂林寺沼

タヌキが
かわいい

緑のヨシが
生い茂る景色

開ける人の
愛情

まるで
ボケモの
世界!

春夏を彩る
ノウルシ



あきらめあきらめ大会
孫と散歩



アドベンチャー!

木道がある 非常

制度説明

「良好な水環境の
創出事業」

保全と活用を
水辺の価値向上と
地域の魅力向上を目指す

今年度の具体的 取組紹介

100年会議

維持管理 --- 茂林寺沼
トライアル タイムス

今日の感想

担い手不足が課題
学校教育との連携
地域との連携が必要

継続的に
教育現場で
携わりたい

沼への関わりがある
色んな人が
いてよかった

ヨシで茅葺を
はにかえるなど
シンボルに
なることをしたい

今やら
ないと!

自分にできることを
やっていきたい
・ボランティア
・発信
・アート

ホテルが
帰ってくる
かも

楽しい
イベント



自然にやさしく
人にもやさしい

意見の多様性
がある

グラジで
他の人の声か
きけてよかった

江戸時代など
昔の生活を
再現する
イベントは？

クラウド
ファンディング
で資金を
集めるのは
どうだろう?

第2回会議グラフィックレコーディング

20年後(2045年)の茂林寺沼湿原の姿を実現するために

私たちは
どのような活動
ができるか?
それは
どのエリアか?

第1回はなぜ(Why) → 今回はどのように(How)

第2回「茂林寺沼湿原 100年会議」2025.11.9

Graphicrecording by 関美穂子

☆ **維持活動**
が行われる

☆ **教育活動**
仲間を増やす

活動が行える
資金の確保

授業参観で
保護者にも伝える



大泉高校と
コラボ



原風景の保全
(ヨシ刈りだけ
ではない)

清掃活動の
イベント化
(継続)

オオヅクサ
の除去



堰の開放



水量を
上げる

西からの
流入

水質を
キレイにする



茂林寺川

中央園路

沼之遊ば
スポット

茂林寺沼

南岸用地

駐車場

商店街

遊具・アスレチック

子どもが自然と集まる
場所あり

誇り

学習拠点を
つくる

拠点

若い人たちの
研究発表の
場

データを
蓄積

定量化
効果確認

現状を
認識



AIを
活用

データがあることで、改善が見えるようになる
オープンに共有することで実感が湧く

ヨシと壁に
木道迷路

木道を増設・整備
→ 体験学習、
環境学習とからめて



立ち入りエリアを
目的によって分ける

群馬県指定天然記念物
茂林寺沼及び低地湿原

茂林寺の
観光地的魅力を
より高める

茂林寺

茂林寺

関係人へ

ヨシの商品を
もつ作る



食×里沼
のカフェ

堆肥の
ブランド野菜
ヨシで
固形燃料



資源の
地域循環を
とりもどす

地元の人
がいつ集まる

よその人
もあそびに来る



第3回会議グラフィックレコーディング(その1)

第3回「茂林寺沼湿原 100年会議」2026.1.31

Graphicrecording by 関美穂子

20年後(2045年)に向け一歩を起すために

来年度、こんなことを

やってみたい・継続したい・協力したい

今年度よかった活動

ヌマヨシ
カッターズ
成果が目
見えてよかった



キョウバスターズ
普段ない泥まみれが
特別だった

達成感!

普段あゆまない人と
みんなができたのも
楽しかった



外来種駆除
技の大変だけれど
思い出に残る

清掃活動
また参加したい
新しい知3
機会になった



湿原保全活動
引き続き
していきたい

ゴミ拾い
水位測定
カキツバタ
栽培

カキツバタがさらに
見えやすいよう
もっと丁寧に
管理したい

自主研究会
勉強に
なった
寒かったけど
思い出に
残った

ワークショップで使うヨシが
「日本遺産のだよ」ではなく
茂林寺沼のことも
もっとアピールしたい

小学生が
色々調べてくれた
安心した

自分たちの
行った活動の
体験を子どもたちに
伝えた
小中学生への
教育
子どもたちの反応
がよかった
教える側に
回りたい

学校の
ヨシエ作
勉強に
なった



第3回会議グラフィックレコーディング(その2)

第3回「茂林寺沼湿原 100年会議」2026.1.31

20年後(2045年)に向け一歩を起すために
来年度、こんなことを
やってみたい・継続したい・協力したい

Graphicrecoording by 関美穂子

2045

湿原と人の関係を
結びなおす

多くの人が
沼にきてほしい

四季の自然
美しい自然
動植物の多様性を
引き続き維持

四季に豊かな
自然を
感じたい

茂林寺沼湿原
の価値を
みんなが
理解し楽しむ

地元の人が
いつでも集まる

観光客も

子どもたちも
安全に集まる

よその人も
おもてなしできる

交流人口
→関係人口へ

茂林寺の
観光地的魅力を
より高める

保全活動

水量を
維持する
方法を検討

まず畑に
水がためる
竹炭を
使う

水質浄化
の仕掛け
ナバル
検討

まず
市民調査
まずは
やる
ことから

外来種の
駆除

希少種
を守る

費用のかかる
大きな
インフラ整備
も課題

関わるきっかけ

灯り、エト
「作る」を
きっかけに

無印良品
ヨシWEEK
ライト
アップ

まず
ヨシストロー
×
店舗買い物客が
試飲

情報
発信

若人向け
SNSスポット

ライト
アップ
ナイト
ウォーク

タイムズ
子どもたちの
発信

生き物
ガイド情報
発信
→きてもらう

小中学生の
学習の
場

場を整備

連絡板
(DX化
できたら!)

まず
小屋の活用
空き店舗
施設

拠点の
整備

管理
人

木道の
整備

普及教育の場
にも

計画をつくり
集中的に
投資

クラウド
ファン
ディング

資源循環

MORINJI
PRAYで
情報発信

普及教育の場
にも

竹炭うり
どこで
作る?

水の浄化
フィールドワーク

まず
調査
やってみる

ヨシの
堆肥
づくり

ヨシクガ
うどん

ハチミツ

クラウド化

どこに巣箱
置ける?許可は?

続くしくみ

連携企業との
マッチング

自然共生
サイト
登録

企業のCSRの
取組みに
とりにこんでもらうための
情報発信

イベントの
ノウハウ
企業に
あります!

やりたいこと
ぜひ提案
してほしい

★(まず)
がついて
いるアク
ションを
次年度優
先的に展
開してい
く

100年会
議は情報
交換と成
果発表の
場として
次年度以
降も年2
回程度継
続開催し
ていく予
定

■実施内容：取組(2)魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

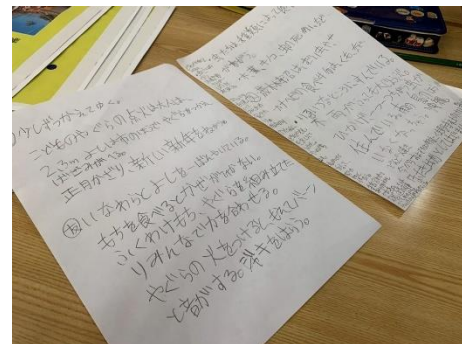
《小学生の視点で湿原の魅力・課題・活動を可視化する》

- ・ 地元の館林市立美園小学校4年生(児童58人)の総合学習の時間と連動し、フィールドワークや取材を通して湿原の魅力を発見し、「茂林寺沼タイムス」として情報発信する。

- ❖7/17(木) 「出前授業(レクチャー)」
- ❖9/19(金) 「フィールドワーク」
- ❖11~12月 「個人タイムス」作成
- ❖1/15(木) 「出前授業(調べ学習)」
- ❖1/21(水) 「出前授業(ゲストティーチャー)」
- ❖1~2月 「グループタイムス」作成
- ❖2/10(火) 「里沼オンラインサミット」で発表！
- ❖3月~ 「個人タイムス」→館林市立資料館Xで紹介
「グループタイムス」→市内施設・店舗で展示(予定)

■実施成果：

- ・ 地元小学校と連携し、子どもたち自身がフィールドワークや調査、ゲストティーチャーとの交流を通して湿原の特徴や魅力を発見し茂林寺沼湿原の保全・活用意識をもつていただくことができた。
- ・ 100年会議参画者がゲストティーチャーとして訪問したり、100年会議や維持管理トライアルの活動が「タイムス」の内容と連動でき児童の学びを深めることができた。



【取組2】魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

《出前授業(レクチャー)》

- 日時：7/17(木) 11:30~12:15
- 場所：館林市立美園小学校
- 参加：4年生 58人
- テーマ：

- ①日本遺産「里沼」や茂林寺沼湿原の特徴について説明・動画で学習
- ②「100年プロジェクト」の概要、「茂林寺沼タイムス」の進め方の説明



当日のようす

《フィールドワーク》

- 日時：9/19(金) 8:35~11:20
- 場所：茂林寺沼湿原・南岸用地
- 参加：4年生 58人
- テーマ：

- ①茂林寺沼や湿原を散策+観察しながら「フィールドビンゴ」を体験
- ②子ども向け読本「私たちの里沼」を使ってフィールドワークを実施



当日の流れ詳細
橋本淳司さんYahooニュース

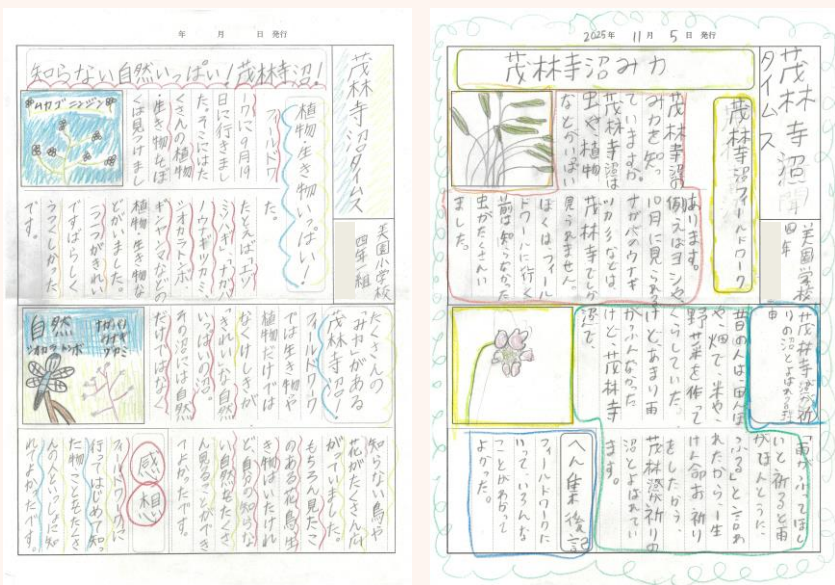


当日のようす

【取組2】魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

《個人タイムス作成》

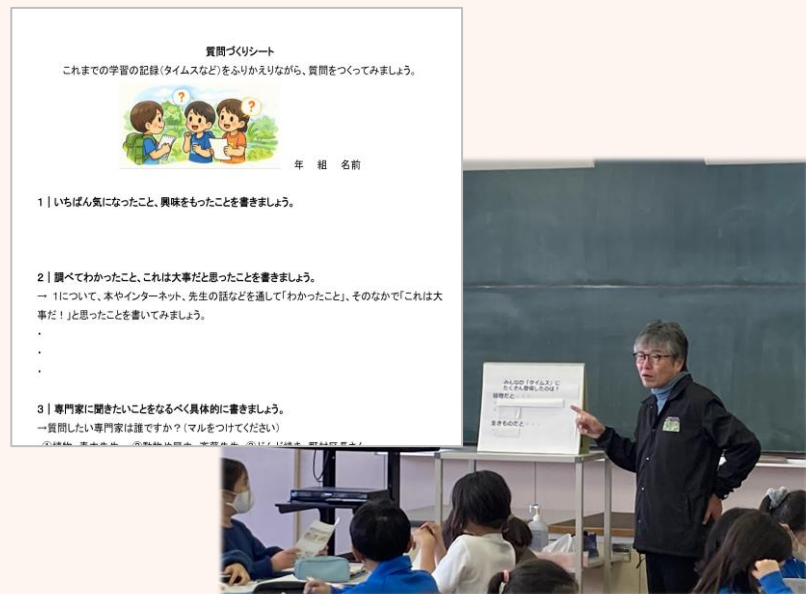
- 期 間：11～12月
- 場 所：館林市立美園小学校
- 参 加：4年生 58人
- テーマ：
 - ① 資料やインターネットなどを使って沼・湿原に関して気になることを調査
 - ② 児童それぞれで個人の「茂林寺沼タイムス」を編集・発行



児童が作成した「個人タイムス」(例)

《出前授業「調べ学習」》

- 日 時：1/15(木) 14:25～15:10
- 場 所：館林市立美園小学校 3階家庭科室
- 参 加：4年生 58人
- テーマ：
 - ① 橋本淳司氏が「個人タイムス」にコメント
 - ② 「質問づくりシート」を使って専門家の先生への質問を作成



当日のようすと質問シート

【取組2】魅力発見調査「茂林寺沼タイムス」

《出前授業(ゲストティーチャー)》

- 日時：1/21(水) 14:50～15:35
 - 場所：館林市立美園小学校 ふれあいルーム
 - 参加：4年生 58人
 - テーマ：
専門家(ゲストティーチャー)に直接質問
- ・植物 →青木雅夫先生
 - ・動物や昆虫 →斉藤秀生先生
 - ・どんど焼き →野村貞雄 堀工区長
 - ・分福茶釜 →中村貞蔵 ぶんぶくガイド会長
 - ・茂林寺やイベント →古川正道 茂林寺住職
→牧田康平 NPOあいず理事長



100年会議のメンバーが児童に茂林寺沼湿原の魅力を伝えた

《「グループタイムス」作成》

1～2月
取材内容を
グループごとに
まとめる
↓
グループ
「タイムス」編集



《里沼オンラインサミット》

- 日時：2/10(火) 14:00～15:00
- 場所：オンライン
- 参加：美園小(4年)、八小(4年)、三中(1年)から代表1～2グループを選出
- 内容＝発表10分 + 質疑応答5分程度
- 方法＝GoogleMeetで
100年会議メンバーも視聴



《「茂林寺沼タイムス」公開》

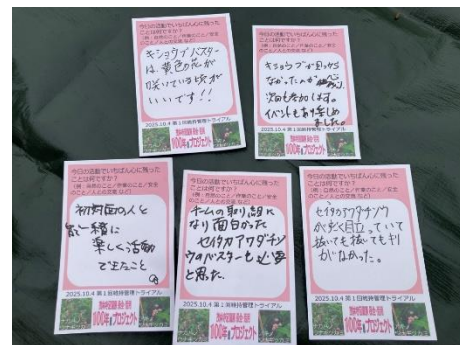
3月～

- ・市内施設や店舗での展示
- ・ネット公開(資料館X)

■実施内容：取組(3)地域活動者による維持管理トライアル

《実践・体験・見試しの場》

- ・ヨシ刈や外来種駆除など維持管理活動の体験会を実施し、将来的に保全・活用を担う人材を育成する。
 - ◆10/4(土) 第1回「キショウブマスターズ」
 - ◆11/23(日) 第2回「ヌマヨシカッターズ」
 - ◆1/11(日) 第3回「ドンドファイヤーズ&シツゲンドクターズ」
 - ◆2/14(土) 第4回「バンブーカッターズ」
- ・単なる作業労働とならないよう、活動の目的やスキル伝達、関連するワークショップ等を実施したほか、各回ごとにふりかえりや参加者同士の対話の時間も設けた。
- ・各活動ごとに動画を撮影し、フルバージョン(約5分)、ショートバージョン(約1分)をYouTube日本遺産「里沼」ちゃんねるにて公開し、活動内容共有とノウハウの蓄積を図った。
- ・第2回トライアル終了迄に「茂林寺沼湿原 維持管理活動指針(案)」を作成し、生態系への配慮や安全対策等を講じた。



■実施成果：

- ・今年度実施した4つの活動とも、参加者の評価が高く「楽しかった」という意見だけでなく、学びや参加者同士の交流を生むことができた。
- ・将来的なサステナブルツアー造成を図る端緒を築くことができた。次年度以降は、普及啓発と保全活動の濃淡を調整しながら年間6回のプログラムとして展開していく。



【取組3】 地域活動者による維持管理トライアル

第1回「キショウバスターズ」

- 日 時：10/4(土) 10:15～12:15
- 場 所：茂林寺沼湿原
- 参 加：35人
- 活 動：



当日の流れ詳細
橋本淳司さんYahooニュース

- ①アイスブレイキング
(高校生〇×クイズ)
- ②外来植物(キショウバ)駆除
- ③ふりかえり・対話



記録動画

当日のようす

第2回「ヌマヨシカッターズ」

- 日 時：11/23(日) 9:00～12:00
- 場 所：茂林寺沼湿原+うどんもり陣
- 参 加：25人
- 活 動：



当日の流れ詳細
橋本淳司さんYahooニュース

- ①アイスブレイキング(クイズ)
- ②ヨシ刈り作業
- ③ミニよし灯り工作ワークショップ
- ④ふりかえり・対話



記録動画

当日のようす

Ⅲ. 成果と今後の課題・展望

「茂林寺沼湿原」保全・活用100年プロジェクト
—人と湿原の関わりを結び直す(里沼の再生)—

■ 成果：令和7年度成果指標KPI

取組	設定指標	令和6年度	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和7年度)	達成度
(1)100年会議	参加主体数	(未設置) 0回	12主体	21主体	◎
(2)茂林寺沼タイムス	発行回数	(未発行) 0回	4回	(個人1/グループ1) 2回	○
(3)維持管理トライアル	保全活動数	(未実施) 0回	5回	4回	○

- ・取組(1)の100年会議の参加主体は当初想定の1.4倍の21主体の参加を得て、今後プロジェクトを展開する上で鍵となるプレイヤーの意見を将来像や具体的活動に落とし込むことができた。
- ・取組(2)はグループを編成したのち4回発行を想定していたが、学校側との協議の上、個人タイムス作成後、児童の興味関心に応じてグループを編成し、「里沼オンラインサミット」発表用のタイムスを発行することとした。
- ・取組(3)は、開催時期が若干動いたものの、当初想定していた実施回数を概ねクリアすることができた。次年度以降は年間6回の活動を定着化させるためのPR活動やインセンティブ導入等も検討していく。

■ 期待される波及効果：

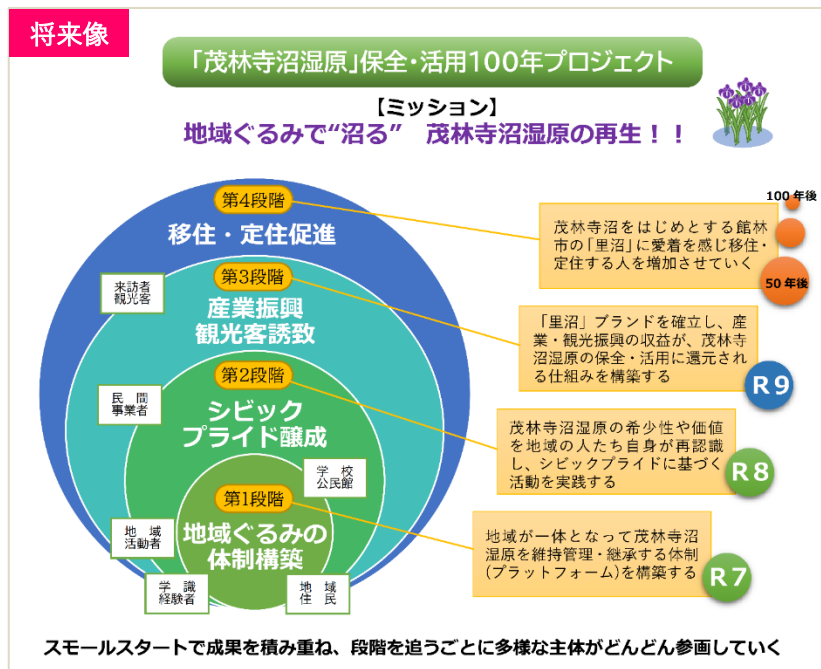
- ・これまで茂林寺沼湿原における各主体の活動は個々に行われており、相互に連携が図られていないことが課題であったが、**今年度の取組の結果、それぞれの主体者同士が顔の見える存在となり、既存の活動への協力者増加や、主体者同士がコラボレーションした新たな活動が行われ、地域主体の保全・活用事業の展開が期待される。**
- ・貴重な地域資産である茂林寺沼湿原の保全・活用の取組に参加することで「地域の人同士で交流できてよかった」「みんなで力を合わせて保全活動ができたことが楽しかった」などの意見も多く寄せられたことから、**より一層の地域活性化やシビックプライドが醸成されることが期待される。**

■ 地域にとっての水環境(茂林寺沼湿原)

- ・ 茂林寺沼湿原は、人里の近くにあって地域の人々の生活や生業に関わってきた。沼の水や動植物の恵みを得る一方で、人が手を加えながら、良好な自然が守られており、周辺地域の生活には無くてはならない存在であった。
- ・ しかし、昭和35(1960)年の文化財指定に伴う用地買収により行政以外が関わることのない状態となったことで荒廃が進み、沼・湿原に消滅危機に瀕していた。
- ・ 茂林寺沼を含む、館林市のストーリー「里沼」が日本遺産に認定を受けたことで、改めて茂林寺沼湿原の価値を見直す機会が到来している。

■ 保全・活用に資する仕組み：

- ・ モデル事業の取組みを通して獲得を目指す付加価値は3つである。
- ① 地域ぐるみの保全・活用が進展することで茂林寺沼湿原が継承され、**子どもたちや地域住民の中に生まれたシビックプライドが館林市の将来を支えること**
 - ② 本市で生まれた産物や製品が「里沼」ブランドとして愛され、**地域経済の収益化が実現し、茂林寺沼湿原の保全・活用の長期的な資金として還元されていくこと**。また、民間事業者との連携が展開し、行政予算や補助金頼りではなく**独立採算で地域再生の好循環が生み出されていくこと**
 - ③ 茂林寺沼湿原をはじめとした「里沼」の魅力が日本全国、世界に広がり、本市を観光で訪れたことをきっかけにリピーターとなり、**「行く里沼」(観光)から「住む里沼」(移住・定住)を転換していくこと**



■ 今後の課題：

- ・ 令和7年度の3つの取組を通じて、茂林寺沼湿原100年プロジェクトにおいて見えてきた主な課題は、次の3つのとおり。

課題1	維持管理活動の継続性	「作業特化型」と「体験・普及型」に活動を分け、いずれもプレイヤーが主体となった運営・開催が継続し、常に人間が茂林寺沼湿原に関わる状況を維持すること
課題2	教育活動の充実・強化	湿原の貴重性PRや活動参加者を獲得するための教育・普及活動が、「学び」や「見直し」のフィールドとして湿原周辺で定期的の実施・展開されていくこと
課題3	活動資金の確保	廃ヨシ活用商品や体験活動ツアー造成による収益化のほか、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などの寄付、将来的な自然共生サイト登録による資金調達等で活動資金が確保できること

茂林寺沼湿原 保全・活用 100年プロジェクト



館林市立資料館 X
[館林市文化振興課]



100年プロジェクト
活動履歴サイト

一人と湿原の関わりを **結** び直す(里沼の再生)―